

第10次福岡市基本計画

素案

第1章 総論

| | |
|--------------------------------|---|
| 1 計画策定の趣旨 | 1 |
| 2 計画の位置付けと計画期間 | 2 |
| (1) 計画の位置付け | |
| (2) 計画の目標年次 | |
| 3 都市経営の基本戦略 | 2 |
| (1) 生活の質の向上と都市の成長の持続的な好循環を創り出す | |
| (2) 多様な人材が育ち、集い、チャレンジできる環境をつくる | |
| (3) 福岡都市圏全体として発展し、広域的な役割を担う | |
| 4 計画の目標 | 6 |
| (1) 分野別目標 | |
| (2) 空間構成目標 | |
| (3) 区のまちづくりの目標 | |
| 5 計画推進にあたっての基本的な考え方 | 8 |
| (1) 行政運営の基本的な方針 | |
| (2) 計画の着実な推進 | |

第2章 計画各論

| | |
|--------------------|----|
| 1 分野別目標 | 11 |
| 2 空間構成目標 | 28 |
| 3 区のまちづくりの目標 | 35 |

1 計画策定の趣旨

- 福岡市は、大陸に近いという地の利に恵まれ、金印や鴻臚館に象徴されるように、二千年を超えるアジアとの交流の中で、多様な人材や、豊かな自然と充実した都市機能がコンパクトに整った都市空間など、様々な財産を築き上げてきました。

1889年に市制が施行された当時の人口規模は、九州では鹿児島市、長崎市に次ぐ3番目の都市でしたが、その後、国の出先機関や企業の支店、大学などの集積が進むとともに、陸・海・空の広域交通の拠点機能を高め、九州の中樞を担うようになっていきました。

- こうした先人たちの長年にわたる尽力によって築かれた、「人」と「環境」という大きな強みを礎として、観光・MICEの振興や都心部の機能強化、スタートアップ都市づくりなど、「都市活力」を向上させるための施策に積極的に取り組みながら、「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市」を目指して、まちづくりを進めてきました。

その結果、人口は増え続け、企業の立地や創業が進み、市税収入は高い水準で推移しています。この成長の果実を生かし、子育てしやすい環境づくりや教育環境の充実、安全・安心なまちづくりなどに積極的に取り組み、元気なまち、住みやすいまちとして、国内外から高く評価されています。

- 一方で、世界に目を向けると、地球規模での気候変動による影響が深刻化し、脱炭素の機運が高まるとともに、不安定な海外情勢等による原油価格や物価の高騰、テクノロジーの大幅な進歩、多様性や一人ひとりの主観(Well-being)の重要性の高まりなど、社会経済情勢や国際社会の価値観も大きく変化しています。

また、日本国内では、少子高齢化の進展による労働人口の減少や価値観の多様化が進む中、福岡市においても、将来的な人口減少社会を見据えつつ、経済、社会、地域コミュニティなどあらゆる分野において、持続可能で多様性と包摂性のあるまちづくりに取り組んでいく必要があります。

- こうした中で、福岡市は、社会の変化と多様な価値観をしなやかに取り入れながら、経済的な成長と心豊かな暮らしのバランスがとれたコンパクトで持続可能な都市として、九州、日本全体を牽引する役割を担うとともに、世界と繋がり、アジアの中で存在感のある都市を目指して、挑戦し続けることが求められています。

このような認識のもとで、今後の都市経営の方向を明らかにし、新たな時代にふさわしい基本計画を策定するものです。

2 計画の位置付けと計画期間

(1) 計画の位置付け

「第10次福岡市基本計画」は、「福岡市基本構想」に掲げる都市像の実現に向けた方向性を、まちづくりの目標や施策として総合的・体系的に示した長期計画です。

(2) 計画の目標年次

本計画の目標年次は、2034年度(令和16年度)とします。

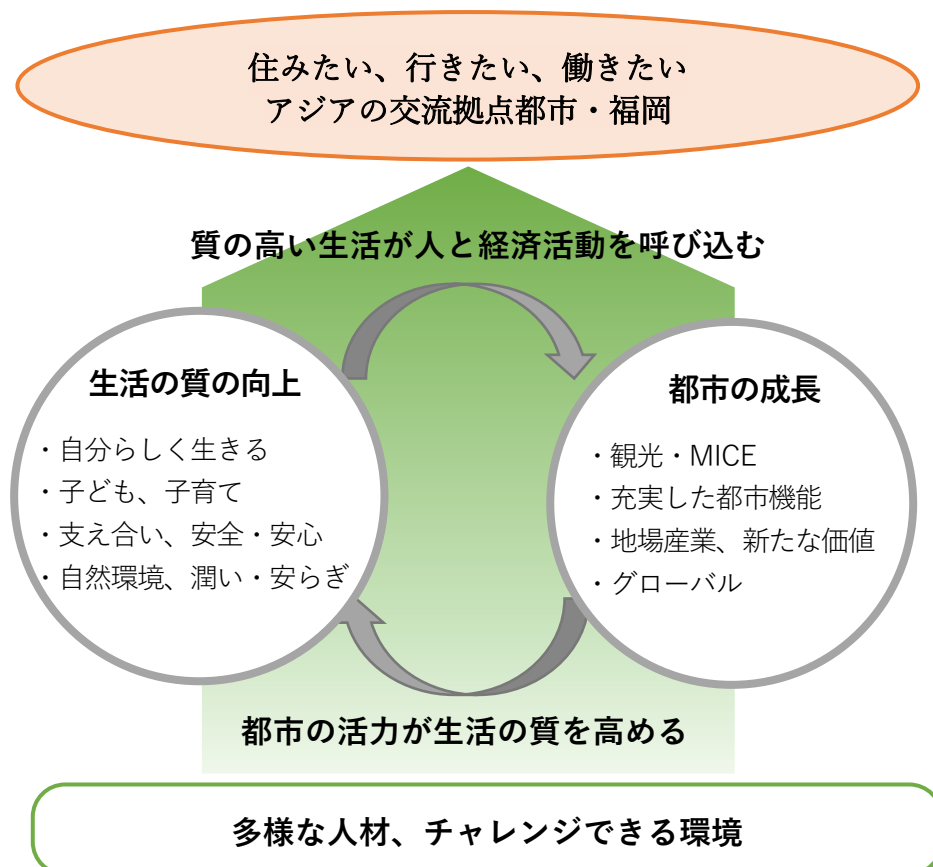
また、計画の期間は2025年度(令和7年度)から2034年度(令和16年度)までの10年間とします。

3 都市経営の基本戦略

福岡市は、都市と自然が調和したコンパクトで住みやすい都市という魅力を生かし、国内外から多様な人材が集い、チャレンジする環境を整えることで、生活の質の向上と都市の成長の持続的な好循環を実現し、福岡都市圏全体の発展、さらには九州、日本全体を牽引していくとともに、「人と環境と都市活力が高い次元で調和したアジアのリーダー都市」を目指して、時代の先頭に立って挑戦していきます。

(1) 生活の質の向上と都市の成長の持続的な好循環を創り出す

福岡市の「住みやすさ」に磨きをかけて市民生活の質を高め、質の高い生活が人と経済活動呼び込むことで都市が成長し、その成長の果実によりさらに生活の質を高めていくという好循環を持続可能なものとしていきます。



①生活の質の向上

- ・少子高齢化が進展し、人生100年時代が到来する中、年齢や性の違い、国籍、障がいの有無などに関わらず、すべての人が自分らしく生きることができ、多様性と包摂性のあるまちづくりを進めます。
- ・子どもを望む人が安心して出産・子育てをすることができ、子どもや若者が将来に夢を描きながら、次代を担う人材として健やかに成長できるまちづくりを進めます。
- ・市民が住み慣れた地域において、地域の人々がつながり、支え合うとともに、必要な生活基盤や行政サービス、防災、防犯、感染症などへの備えが確保され、安全で安心して暮らせるまちづくりを進めます。
- ・豊かな自然環境や景観を守り、コンパクトで暮らしやすい都市を維持するとともに、身近に潤いと安らぎが感じられるまちづくりを進めます。

②都市の成長

- ・自然や歴史、文化、食など、地域の特性や魅力ある資源をさらに生かし、福岡市をはじめ、福岡都市圏、さらには九州全体に活力を生み出す観光・MICEを振興します。
- ・都市の成長エンジンである都心部を中心に、都市機能の充実や、水辺や緑、文化芸術、歴史などにより彩りと潤い、賑わいを創出することで、福岡市の魅力に磨きをかけ、多くの人や企業から選ばれるまちづくりを進めます。
- ・中小企業や農林水産業など地場産業の振興、スタートアップの支援や脱炭素化の推進などにより、地域経済に新たな価値を創造します。
- ・世界と双方向につながり、グローバルな人材や企業が活躍する都市づくりを進めるとともに、アジアとの近接性を生かし、国際社会における存在感に満ちた都市づくりを進めます。

(2) 多様な人材が育ち、集い、チャレンジできる環境をつくる

福岡市は、古来、国内外から多くの人々が訪れ、様々な人達が出会い、交流する都市として歩んできました。このような都市の歴史から、魅力あるまちと風土や風情、気質が形成され、福岡市の財産として脈々と受け継がれてきました。

人口減少社会を迎えた日本において、福岡市は、現在でも人口が増え続け、若者が多く、大学などの高度な教育・研究機能の集積、さらには企業の立地や創業が進んだことで、国内外からチャレンジ精神のある多様な人材が集まって来ています。

また、基礎自治体としての「現場」と都道府県に近い「権限」を持つ政令指定都市の強みや、国の規制緩和を活用し、先進的なテクノロジーの社会実装にも取り組んできました。

生活の質の向上と都市の成長の持続的な好循環を推進するため、こうした福岡市の個性や強みを生かし、多様な人材が育ち、国内外から集い、互いに交流しながら、誰もが様々な分野で将来に向かってチャレンジできる環境をつくります。

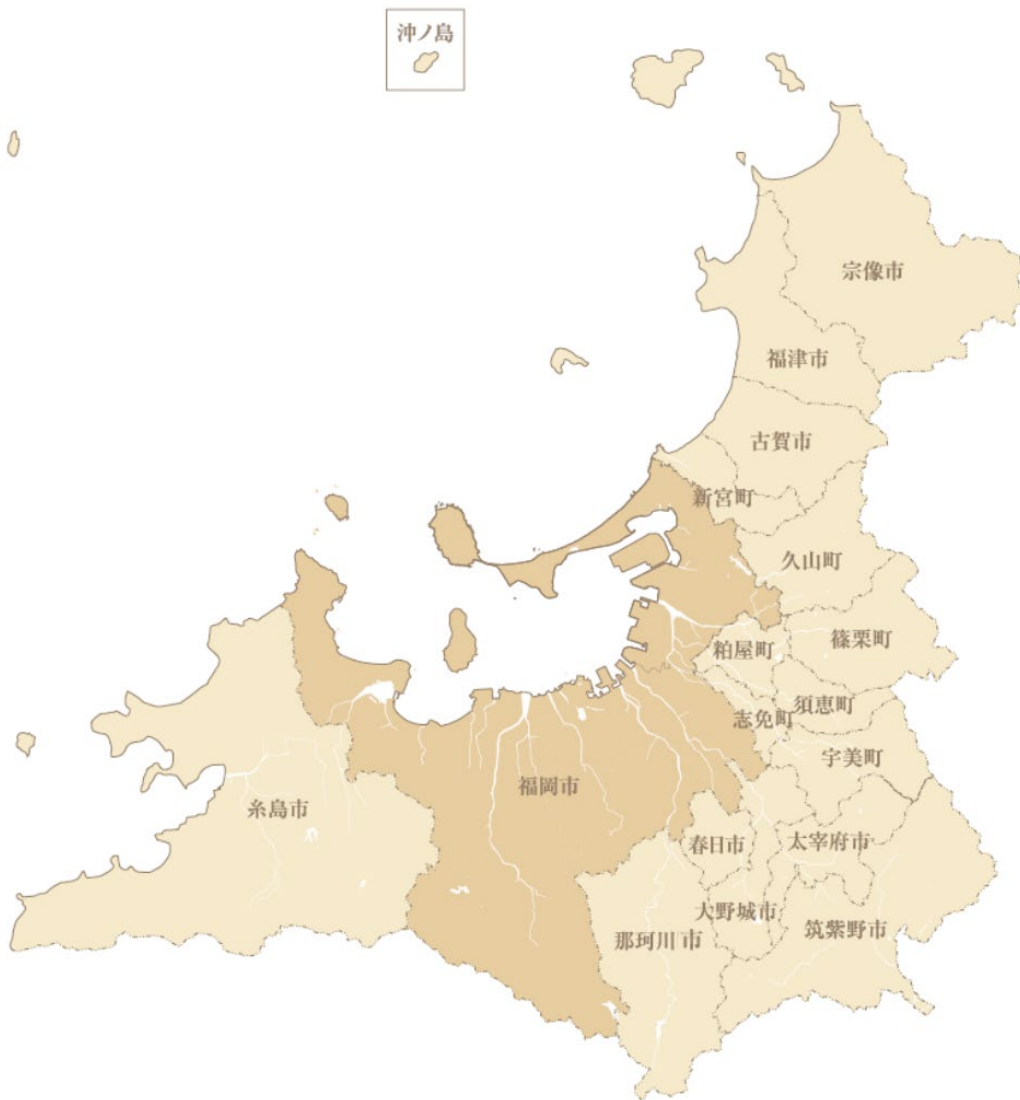
(3) 福岡都市圏全体として発展し、広域的な役割を担う

生活圏・経済圏が一体化した福岡都市圏では、これまで交通、水、医療・福祉、環境、消防などの都市圏に共通する課題と一緒に取り組んできました。

全国的に人口減少が進む中で、福岡都市圏では人口が増え続け、活力ある地域として評価されていますが、今後もこの活力を保ち、少子高齢化の進展や、人口減少社会の到来に対応していくためには、福岡都市圏の各市町が連携を一層深め、安全で安心して生活でき、文化や仕事が充実し、成熟した社会にふさわしい市民生活の場を提供するとともに、九州、日本全体の発展を牽引する、国際競争力をもった都市圏を実現していくことがより重要となります。

福岡市は、このような考えのもと、都市圏の各市町との連携を基盤にして、九州・日本・アジアとの関係においても、次のような広域的な役割を担っていきます。

■福岡都市圏 圏域図



①九州における役割

- ・福岡市は、九州のゲートウェイとして、文化、教育、経済、情報など様々な高次機能を備え、国内外から人と企業を呼び込み、九州全体の成長を促進するとともに、災害時における市域を越えた支援など、九州全体の安全・安心に貢献する役割を担っていきます。
- ・福岡市が都市活力を高め、多様な人材が自己実現できる環境をつくることにより、九州から東京圏への人口流出の抑制に一定の役割を果たしていきます。

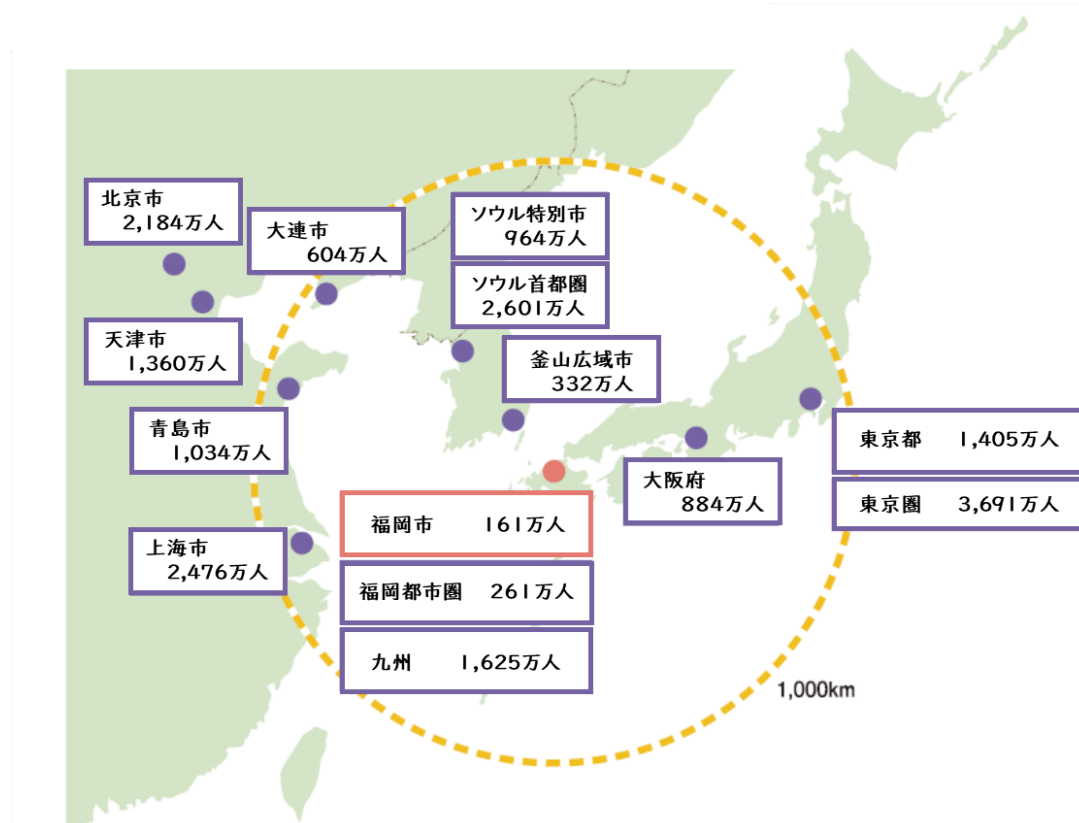
②日本における役割

- ・福岡市は、日本海側最大の都市であり、アジアに近い位置にあることから、学術、文化、経済など様々な面で日本とアジアをつなぐ役割を担っていきます。
- ・東京圏との同時被災リスクが低い地理的特性を生かし、国の規制緩和制度も活用しながら、産業の国際競争力の強化や国際的な経済活動の拠点形成を図り、日本経済を牽引していく役割を担うとともに、豊かな自然と、充実した都市機能がコンパクトに整った、東京とは異なる独自の魅力のある都市として、地方創生の先導的な役割を担っていきます。

③アジアにおける役割

- ・福岡市は、経済的な成長と心豊かな暮らしのバランスがとれた持続可能な都市として、都市デザイン、環境、上下水道、交通、福祉などの分野において、アジア諸都市のモデルになるとともに、人材や交流の蓄積を生かし、アジアと共に、文化的にも経済的にも継続的に発展する拠点としての役割を担っていきます。

■福岡市を中心とした1,000km 圏内とその周辺にある都市



4 計画の目標

10年後の2034年度(令和16年度)の都市の望ましい姿を、まちづくりの目標として掲げます。まちづくりの目標は、「分野別目標」、「空間構成目標」、「区のまちづくりの目標」で構成します。

(1) 分野別目標

「分野別目標」は、基本構想に掲げる都市像の実現に向けて、人やまちをどのような状態とするかを目標として示したものです。

「分野別目標」ごとに「めざす姿」と「市民意識」、「現状と課題」を記載し、分野別目標の達成に向けた取組みとなる「施策」を示します。

■基本構想の都市像と基本計画の分野別目標

| 基本構想 都市像 | 基本計画 分野別目標 | |
|--|---------------|----------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ●自律した市民が支え合い心豊かに生きる都市 ●自然と共生する持続可能で生活の質の高い都市 | 目標1 | 一人ひとりが心豊かに暮らし、自分らしく輝いている |
| | 目標2 | すべての子ども・若者が夢を描きながら健やかに成長している |
| | 目標3 | 地域の人々がつながり、支え合い、安全・安心に暮らしている |
| | 目標4 | 人と自然が共生し、身近に潤いと安らぎが感じられる |
| <ul style="list-style-type: none"> ●海に育まれた歴史と文化の魅力が人をひきつける都市 ●活力と存在感に満ちたアジアの拠点都市 | 目標5 | 磨かれた魅力に人々が集い、活力に満ちている |
| | 目標6 | 都市機能が充実し、多くの人や企業から選ばれている |
| | 目標7 | チャレンジ精神と新たな価値の創造により、地域経済が活性化している |
| | 目標8 | アジアのモデル都市として世界とつながり、国際的な存在感がある |

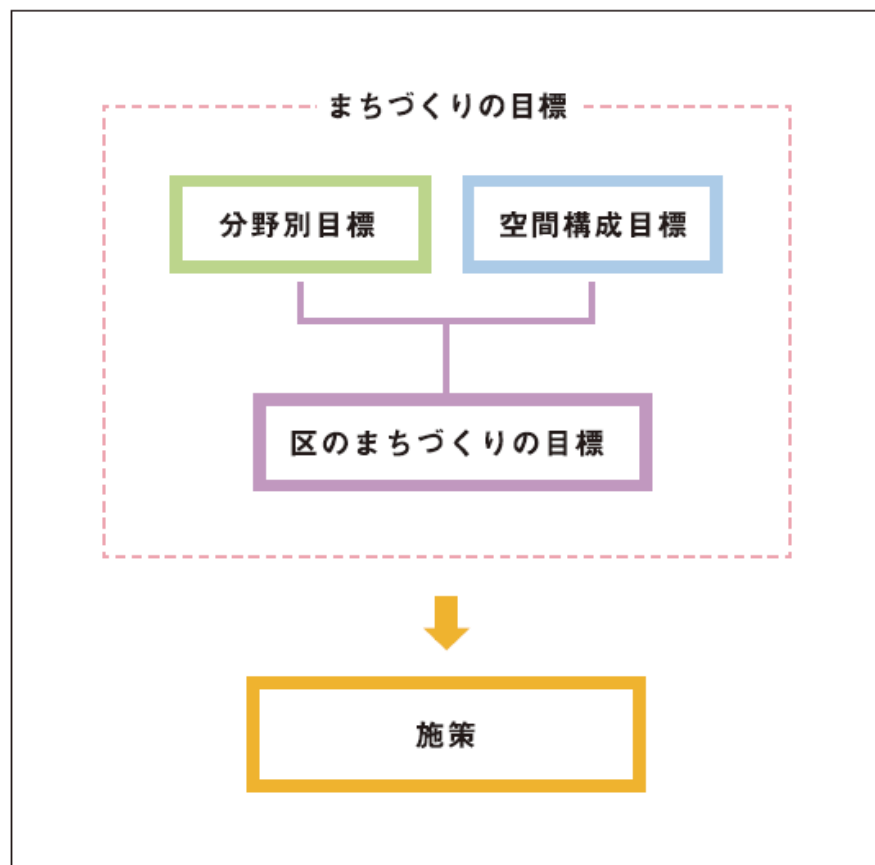
(2) 空間構成目標

「空間構成目標」は、市民生活や都市活動の場となる都市空間を、どのように形成し、どのように利用するかを目標として示したもので、「現状と課題」、「めざす姿」、「空間構成目標の実現に向けた土地利用の方向性」などを示します。

(3) 区のまちづくりの目標

「区のまちづくりの目標」は、「分野別目標」や「空間構成目標」を踏まえ、市民及び様々な主体が、地域のまちづくりに取り組むために共有する目標として、行政区ごとにまちづくりの目標を示したものです。行政区ごとに、「区の特徴」、「現状と課題」、「まちづくりの目標と取組みの方向性」を示します。

基本計画体系イメージ



(1) 行政運営の基本的な方針

① 多様な主体との共創・共働

- ・まちづくりの主役は市民であり、行政運営は市民との共創・共働が基本です。
- ・そのため、年齢や性の違い、国籍、障がいの有無などを問わず、多様な市民に思いやりのある配慮を行うというユニバーサルデザインの理念に基づき、積極的に情報を発信し、市民との情報共有を図るとともに、市民の声を真摯に受け止め、対話を重ねることにより、市民の納得、共感を得ながら、市民に分かりやすく、透明性の高い行政運営を推進します。
- ・また、誰もが住みやすいまちであり続けるためには、様々な課題解決に向けて、市政の主役である市民と企業、行政などが、それぞれの役割を認識し、責任を果たしていくことが不可欠です。こうした取組みには、福岡市を愛し、地域を育てる、情熱と地道な活動が必須であり、市民、地域、NPO、企業、大学など多様な主体とつながり支え合い、最適な役割分担のもとで、共創・共働を進めます。

② 持続可能な行財政運営

- ・福岡市では、これまで第9次基本計画に基づき、財政の健全性を保ちながら、「生活の質の向上」と「都市の成長」に資する施策・事業を積極的に推進してきた結果、市債残高を着実に減少させつつ、市税収入は過去最高を更新しています。
- ・このように、市税収入が伸びている一方で、今後は、社会保障関係費や公共施設の建替え・改修経費に加え、社会経済情勢の変化や市民ニーズの多様化などによる行財政需要の大幅な増加が見込まれています。
- ・そのため、歳入の積極的な確保や、施策・事業の徹底した選択と集中による重点化、既存事業の組替え、アセットマネジメントの推進、行政運営の効率化などの取組みにより、引き続き持続可能な行財政運営に努めながら、福岡市を次のステージへと飛躍させる取組みを着実に推進します。

③ 時代に合った柔軟で果敢にチャレンジする組織づくり

ア 柔軟な組織運営と区役所の役割

市長・副市長のトップマネジメントのもと、市政全般の運営方針や経営理念を共有した上で局長や区長がリーダーシップを発揮し、社会経済情勢や市民ニーズの変化にスピード感をもつて的確に対応できる組織運営体制の構築を図ります。

市民に身近な区役所については、市民生活に密着したぬくもりのあるサービスの拠点、地域の個性を生かしたまちづくりの拠点、住民ニーズの施策への反映拠点、そして情報の受発信の拠点と位置づけ、市民サービスの向上や地域コミュニティ支援機能の強化、区の体制強化などを進めます。また、窓口サービスなどの市民生活に密着したサービスについては、現在の7区において、公平性の確保に努めます。

イ 組織力のさらなる向上

様々な変化に対応できるよう、常に時代の変化への感度が高く、新しいことに果敢に挑戦する組織をつくります。

また、職員一人ひとりのエンゲージメント(貢献意欲)を向上させ、職員の力を高め、引き出すとともに、局や区を越えた職員間のコミュニケーションを活発にし、職員の力を組織の力として最大限発揮する組織づくりを進めます。

④ 最先端技術の活用の推進

- ・ 誰もがデジタルなど最先端技術の恩恵を実感できるよう、十分なセキュリティの確保のもと、これらの活用を積極的に進め、市民の利便性の向上や業務の効率化を推進します。

⑤ 広域的な連携の推進

- ・ 広域的な観点から圏域に共通する課題に対応し、効率的で質の高い行政サービスの提供や圏域の一体的な発展を目指して、福岡都市圏や九州の各都市との連携・協力を推進します。
- ・ また、基礎自治体優先の原則のもと、市民がより良い行政サービスを受けられるよう、権限・税財源の移譲や、国と地方の役割分担を含めた大都市制度のあり方などについて、関係自治体と連携・協力をして取り組みます。

(2) 計画の着実な推進

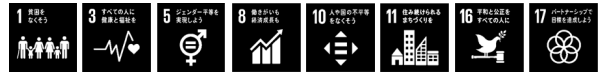
計画の推進にあたっては、社会経済情勢の変化を踏まえながら、4年間の実施計画である「政策推進プラン」で具体的な事業を示すとともに、毎年度の予算編成の中で、その必要性や緊急性を検討しながら予算化を行っていきます。

また、計画の進行管理として、基本計画及び政策推進プランの中で、市民意識や各事業の進捗状況を把握・評価し、PDCA サイクルを回していきます。

1 分野別目標

<構成>

| | |
|----------|---|
| (1)めざす姿 | 目標年次である2034年度(令和16年度)に実現していることを目指す「都市の状態」を表すものです。 |
| (2)市民意識 | (1)のめざす姿を市民にわかりやすい言葉で表し、まちづくりに関する市民意識を把握するものです。 |
| (3)現状と課題 | 社会経済情勢や市民意識などを踏まえ、現状と課題を示すものです。 |
| (4)施策 | (3)の現状と課題を踏まえ、(1)のめざす姿を実現するための取組みの方向性を表すものです。 |



目標 1 一人ひとりが心豊かに暮らし、自分らしく輝いている

(1) めざす姿

- 年齢や性の違い、国籍、障がいの有無などに関わらず、すべての人の人権が尊重され、市民一人ひとりが互いに多様性を認め合うことで、誰もが自分らしく輝いています。
- 市民一人ひとりが、それぞれの知識や経験を生かし、社会の担い手、支え手として意欲的に社会参加するとともに、文化芸術やスポーツなどを身近に感じ、気軽に楽しみながら、健やかで心豊かに充実した生活を送っています。
- 支援を必要とする市民が適切な福祉・介護等のサービスを受け、誰もが安心して、快適に暮らしています。

(2) 市民意識

| 項目 | 初期値 |
|--|-----|
| 「年齢や性の違い、国籍、障がいの有無などに関わらず、誰もが尊重され、自分らしく生きられるまちづくり」が進んでいると思う市民の割合 | |
| 「気軽に文化芸術やスポーツなどを楽しむことができ、心豊かに暮らせるまちづくり」が進んでいると思う市民の割合 | |

(3) 現状と課題

- ① 福岡市には、国内外から多様な人々が集まり、ともに生活しています。年齢や性の違い、国籍、障がいの有無などに関わらず、誰もが自由に快適に生活できるよう、互いに思いやりをもち、ハード・ソフトの両面からすべての人にやさしいまちを実現する必要があります。
- ② 少子高齢化が進展し、社会の担い手、支え手が不足する一方、健康で社会参加に意欲的な高齢者は増えています。健康寿命の延伸に加え、誰もが文化芸術やスポーツなどを楽しみ、生涯にわたって生きがいを感じることができるような社会づくりが求められています。
- ③ 単身高齢者や要介護認定者、障がいのある方など、支援を必要とする市民が増加していく中で、本人やサポートする人の多様なニーズに応じた福祉・介護等のサービスの充実が求められています。

(4) 施策

1-1 多様な市民が輝くユニバーサル都市・福岡の推進

誰もが思いやりをもち、年齢や性の違い、国籍、障がいの有無などに関わらず、すべての人にやさしいまちの実現を目指し、バリアフリーのまちづくり、人権教育・啓発、女性の活躍や多文化共生の推進などに取り組みます。

1-2 一人ひとりが健やかで心豊かに暮らせる社会づくり

一人ひとりが健やかで心豊かに暮らし、社会参加することができる社会を目指して、市民の健康づくりや、高齢者の社会参加を支援するとともに、身近なところで気軽に文化芸術やスポーツなどを楽しむことができる環境づくりを進めます。

1-3 すべての人が安心して暮らせる福祉の充実

年齢や障がいの有無などに関わらず、住み慣れた家庭や地域で安心して自分らしく暮らし続けることができるよう、福祉・介護等のサービスを継続的に提供できる体制の構築を進めます。



目標 2 **すべての子ども・若者が夢を描きながら健やかに成長している**

(1) めざす姿

- 子どもを望む人が、働き方やライフスタイルに関わらず、安心して出産、子育てをしています。
- すべての子どもや若者が、権利の主体として尊重され、生まれ育った環境に左右されず、夢や希望を叶えられるよう、社会全体で見守られながら、心身ともに健やかに育っています。
- 子どもや若者が、自ら学び、人や社会とつながりながら、様々な体験を通じ、生き抜く力を得るとともに、将来を切り拓くことができる、次代を担う人材として成長しています。

(2) 市民意識

| 項目 | 初期値 |
|--|-----|
| 「子どもを望む人が、出産・子育てしやすいまちづくり」が進んでいると思う市民の割合 | |
| 「子どもや若者が心身ともに健やかで、学び、成長できるまちづくり」が進んでいると思う市民の割合 | |

(3) 現状と課題

- ① 価値観の多様化や子育てに対する不安感など、様々な要因により、全国的に少子化が進展する中で、安心して出産や子育てができる環境が一層求められています。
- ② 地域や世代間の繋がり希薄化や、SNSの普及をはじめとする情報ツールの多様化など、社会環境が変化する中で、児童虐待や貧困、不登校やいじめなど、子どもたちが抱える困難は、多様化・複雑化しています。
- ③ テクノロジーの進歩やグローバル化の進展など、社会経済情勢が大きく変化する中で、子どもや若者が様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることが求められています。

(4) 施策

2-1 子どもを望む人が安心して生み育てられる環境づくり

家庭、学校、地域、企業などと連携し、社会全体で子どもと子育て家庭を見守るとともに、ライフステージに応じた切れ目のない支援の充実や仕事と子育ての両立支援など、子どもを望む人が安心して出産、子育てできる環境づくりを進めます。

2-2 すべての子どもや若者が安心して暮らし、成長できる社会づくり

様々な困難を抱える子どもや若者への相談体制や支援を充実し、多様な主体と連携しながら、児童虐待や貧困、いじめ、不登校、ひきこもりなどに適切に対応するとともに、夢や希望の実現に向けたサポートを行うなど、すべての子どもや若者が安心して暮らし、健やかに成長できるよう、社会全体で取り組みます。

2-3 自ら学び続け、他者を尊重し、協働できる子どもの育成

変化を前向きに受け止め、自ら学び続け、他者を尊重し、協働できる子どもの育成に取り組むとともに、子どもの学びを支える教育環境の充実に取り組みます。

2-4 将来に夢や希望を抱き、意欲と志を持ってチャレンジする人材の育成

一人ひとりが将来に夢や希望を抱き、自分らしく健やかに成長できるよう、それぞれの個性や価値観を尊重するとともに、遊びや学びの場、様々な体験機会等の充実を図ります。

また、大学や専門学校などの高等教育機関と連携し、子どもや若者が、自己実現に向けてチャレンジできる環境づくりを進めるなど、様々な分野で活躍できる人材の育成に取り組みます。



目標 3 地域の人々がつながり、支え合い、安全・安心に暮らしている

(1) めざす姿

- 市民が身近な地域の課題やまちづくりに主体的に関わり、地域コミュニティ活動の場となる公共施設をはじめ生活環境が整うことで、人と人がつながり、支え合いながら、元気に安心して暮らしています。
- 道路、上下水道、河川、公園などの身近な生活基盤が良好に整備されるとともに、地域における自主防災組織などを中心とした共助の仕組みがつけられ、災害への備えが確保されています。
- 地域の防犯体制や、消防・救急医療体制、感染症への危機管理体制が整うとともに、モラルやマナーが大切にされることで、市民が安全で安心して暮らしています。

(2) 市民意識

| 項目 | 初期値 |
|---|-----|
| 「住んでいる地域で、人と人のつながりや支え合いがあり、安心して暮らせるまちづくり」が進んでいると思う市民の割合 | |
| 「防災や防犯など、安全・安心に暮らすための備えができていくまちづくり」が進んでいると思う市民の割合 | |

(3) 現状と課題

- ① 少子高齢化の進展や地域における孤独・孤立化、災害の激甚化・頻発化などにより、様々な分野で「共助」の重要性が高まる一方で、支え合いの基盤となる地域コミュニティへの関心が低下し、自治協議会や自治会・町内会では、担い手不足や参加者の減少などが大きな課題となっています。
- ② 区役所や市民センターなど、市民に身近な公共施設の老朽化や、市民ニーズの多様化に対応するため、公共施設の計画的な改修や更新、サービスの拡充や施設機能の充実が必要となっています。また、行政サービスのみならず、生活交通の確保や買い物支援など、高齢化社会に対応した地域のまちづくりを進めていく必要があります。
- ③ 道路、上下水道、河川、公園などの身近な生活基盤を安定的に維持していくとともに、近年、激甚化・頻発化している自然災害への対策を強化する必要があります。
- ④ 刑法犯認知件数や交通事故発生件数は減少傾向にありますが、犯罪や事故の撲滅に向けてさらなる対策が求められており、また、アジアのゲートウェイ都市である福岡市の特性を踏まえ、新興感染症等への備えも重要です。

(4) 施策

3-1 つながりと支え合いの基盤となる地域コミュニティの活性化

持続可能な地域コミュニティの実現に向けて、自治協議会や自治会・町内会の基盤強化、住民の自治意識の醸成などを図るとともに、地域活動を担う新たな人材の発掘や、多様な主体が地域全体で支え合う関係を築くための支援を行います。

3-2 生活の利便性が確保された地域のまちづくり

区役所や、地域コミュニティ活動の場として活用されている公民館、市民センター、地域交流センターなど、公共施設の充実・機能強化や多様な施設間の連携を図るとともに、持続可能な生活交通の確保や買い物支援に取り組むなど、それぞれが住み慣れた地域における生活の利便性向上に取り組めます。

3-3 安全で快適な生活基盤の整備と災害に強いまちづくり

身近な道路、下水道、河川、公園などの維持・更新、安全で良質な水道水の安定供給、様々な社会課題や多様なニーズに対応した良質な住宅の確保など、安全で快適な生活基盤の整備に取り組むとともに、防災・危機管理体制や地域防災力の強化をはじめ、ハード・ソフトの両面から、被害を最小限に抑える災害に強いまちづくりを進めます。

3-4 日常生活における安全・安心の確保と地域福祉の推進

多様な主体が連携し、地域における包括的な支援体制の構築や防犯力の強化を図るとともに、自転車や喫煙などのモラル・マナーの向上、消防・救急医療体制の充実、感染症対策の推進、消費者被害の未然防止、食品の安全性確保など、日常生活における安全・安心が確保されたまちづくりを進めます。



目標 4 **人と自然が共生し、身近に潤いと安らぎが感じられる**

(1) めざす姿

- 博多湾や脊振山をはじめとした豊かな自然の恵みを楽しみ、都市と自然が調和したコンパクトで暮らしやすい都市環境が国内外から高く評価されています。
- 美しい街並みや地域の特性を生かした魅力的な景観が形成されるとともに、街中には心地良い花や緑が溢れ、市民が身近に潤いと安らぎを感じています。
- 市民や企業の環境意識が高く、脱炭素社会の実現、循環経済の確立、生物多様性の保全・回復に一体的に取り組む持続可能な社会づくりが進んでいます。

(2) 市民意識

| 項目 | 初期値 |
|--|-----|
| 「海や山などの豊かな自然を守り、生かすとともに、身近な花や緑などに安らぎを感じられるまちづくり」が進んでいると思う市民の割合 | |
| 「市民や企業、行政などが脱炭素やリサイクルなどに取り組んでいるまちづくり」が進んでいると思う市民の割合 | |

(3) 現状と課題

- ① 福岡市は、海や山に囲まれた地理的条件を生かし、コンパクトな都市づくりを進めてきましたが、豊かな自然や食を支える市街化調整区域や離島では、人口減少や少子高齢化が進み、農林水産業の担い手不足や地域コミュニティの維持などの課題を抱えています。
- ② 都市機能が充実する一方で、人々の価値観は、量から質へと変化し、心の豊かさが重視される中、各地域の特性を生かした福岡らしい質の高い都市景観づくりや、公園・街路樹・花壇など、身近な自然への市民ニーズが高まっています。
- ③ 地球規模での気候変動による影響が深刻化し、世界中で環境保全、温室効果ガス排出削減への意識が高まる中、福岡市においても、環境負荷の少ない持続可能な社会の実現に向けた取組みをより一層加速させる必要があります。

(4) 施策

4-1 都市と自然が調和したコンパクトで個性豊かなまちづくり

豊かな自然環境から受ける恩恵を将来にわたって享受するため、農林水産業が有する自然環境の保全や景観形成などの多面的機能を活用するとともに、行政・市民・地域・企業などの多様な主体が共働して博多湾や河川、緑地などの保全に取り組めます。

また、市街化調整区域における農山漁村地域の魅力を生かしたまちづくりや離島振興に取り組み、都市と自然が調和したコンパクトな都市を維持していきます。

4-2 花や緑などによる潤いや安らぎを感じるまちづくり

公園や道路などの公共空間や公開空地などの民有地において、市民や企業との連携、共働を進めるとともに、立地の特性に応じた公園等の整備や魅力向上を図るなど、市民が花や緑などの身近な自然に囲まれ、潤いと安らぎを感じられるまちづくりを進めます。

4-3 持続可能で未来につながる脱炭素社会の実現

2040年度「温室効果ガス排出量実質ゼロ」に向けて、省エネルギー化や再生可能エネルギーの利用拡大、脱炭素型ライフスタイル・ビジネススタイルへの転換、イノベーションの早期社会実装などを市民・事業者・行政が一体となって積極的に推進します。

4-4 循環経済の確立に向けた資源循環等の推進

市民、事業者とともに、発生抑制・再使用に重点を置いた3R(リデュース、リユース、リサイクル)+Renewable(バイオマス化・再生材利用等)をはじめとする資源循環の取組みを推進し、持続可能な形で資源を利用する循環経済への移行を図ります。

目標 5 磨かれた魅力に人々が集い、活力に満ちている

(1) めざす姿

- 自然や歴史、文化芸術、食などの多彩な資源が磨きあげられるとともに、福岡都市圏や九州各都市などと連携し、魅力向上に向けた取組みが行われ、一体的な集客力が高まっています。
- 都心に近い舞鶴公園・大濠公園一帯が、市民の憩いの場となるとともに、歴史や文化を生かした観光交流の拠点として機能し、都市の顔として、さらなる魅力の向上に重要な役割を果たしています。
- 国内有数の MICE 都市として、様々な国際会議が開催されるとともに、スポーツや音楽のイベントなどが盛んに開催されるエンターテインメント都市として、広く認知されています。

(2) 市民意識

| 項目 | 初期値 |
|---|-----|
| 「自然や歴史、文化芸術、食などの魅力的な観光資源を生かし、人々を惹きつけるまちづくり」が進んでいると思う市民の割合 | |
| 「スポーツ観戦や音楽イベントなどのエンターテインメントを楽しめるまちづくり」が進んでいると思う市民の割合 | |

(3) 現状と課題

- ①福岡市は、第3次産業が約9割を占める産業構造であり、交流人口の増加が地域経済の活性化につながる特性があります。陸・海・空のゲートウェイとしての機能や受入環境の充実、九州の自治体等と連携したプロモーションの実施などにより集客力は向上していますが、地域経済のさらなる活性化に向け、多様な国・地域から、付加価値の高い観光誘客が必要となっています。
- ②マリンメッセ福岡B館の開館によって開催可能となった大型展示会など、新たな MICE の増加が見られていますが、国際的な都市間競争は激しさを増しており、国際会議の開催件数や外国人参加者数の増を図るとともに、MICE 誘致を促進する拠点の形成を進めていく必要があります。
- ③ゲームや音楽などの多様なクリエイティブ関連産業が集積するとともに、野球、サッカー、バスケットボールなどのプロスポーツチームが本拠地を置くなど、魅力的なエンターテインメントの資源が豊富にある福岡市の強みを生かし、市民や来訪者など、多くの人々を魅了するまちづくりを進め、認知度向上を図る必要があります。

(4) 施策

5-1 観光資源の磨き上げと戦略的なプロモーションの推進

自然環境や歴史ある街並み、文化芸術、食、祭りなどの福岡市固有の魅力を観光資源として磨き上げ、広域的な連携も図りながら戦略的なプロモーションに取り組むことで付加価値の高い観光誘客を推進するとともに、市民生活の向上を図る持続可能な観光振興に取り組みます。

5-2 博多・福岡の歴史・文化を生かした観光振興

商人の街「博多」と城下町「福岡」の歴史や文化を生かし、「博多」においては、神社仏閣等を生かした魅力ある都市景観の形成に加え、趣のある道づくりや新たな観光拠点づくりなどに取り組むとともに、「福岡」において、都心に近い貴重な緑地空間である舞鶴公園・大濠公園の一体的な活用を進め、福岡城や鴻臚館のさらなる整備・活用により、市民の憩いと集客交流の拠点づくりに取り組みます。

5-3 交流がビジネスを生む MICE の受入環境の形成

都市のプレゼンス向上につながる国際会議やビジネス機会の創出につながる展示会など質の高い MICE のさらなる誘致強化を図るとともに、ウォーターフロント地区において MICE 施設とホテル・利便施設が機能的・一体的に配置される MICE 拠点の形成を進めます。

5-4 人々を魅了するエンターテインメント都市づくり

ゲームや音楽、映像、アートなどのクリエイティブ関連産業と連携し、市民や来訪者が楽しむことのできる体験型イベントを開催するとともに、国際スポーツ大会等の誘致や、地元プロスポーツの振興などを図ることで、人々を惹きつけるエンターテインメント都市づくりを進めます。

目標 6 都市機能が充実し、多くの人や企業から選ばれている

(1) めざす姿

- 都心部において、先進的なオフィス、商業施設などの高度な都市機能が充実するとともに、水辺や緑、文化芸術、歴史などによって彩りや潤い、賑わいが溢れる魅力的な都市空間が形成されています。
- 都市活力や市民生活の核となる市内の各拠点の特性に応じた都市機能が充実し、さらに各拠点が公共交通ネットワークによって繋がることで、多くの人や企業から選ばれるまちになっています。
- 都市の成長を牽引する高付加価値なビジネスの集積などにより、国内外の人材にとって、仕事の選択肢が充実し、「夢が叶うまち」「自己実現できるまち」となっています。

(2) 市民意識

| 項目 | 初期値 |
|---|-----|
| 「オフィス、商業施設、公共交通などの都市機能が充実しているまちづくりが進んでいると思う市民の割合 | |
| 「都心部に、自然や文化などを生かした憩いと賑わいがあり、歩いて楽しいまちづくりが進んでいると思う市民の割合 | |

(3) 現状と課題

- ① 国全体で経済成長が停滞する中で、福岡市のみならず福岡都市圏及び九州全体が活力を維持し、成長を遂げていくためには、九州・アジアのゲートウェイである都心部の機能強化が重要であり、耐震性が高い先進的なビルへの建替えなど、国際競争力が高いビジネス環境を創出するとともに、多彩な魅力がある高質な都市空間を形成していく必要があります。
- ② シーサイドももちやアイランドシティ、九州大学伊都キャンパス及びその周辺、九州大学箱崎キャンパス跡地などの拠点において、高度な都市機能を集積するとともに、それぞれの地域の個性や強みを生かし、福岡市の成長を支えるまちづくりを進める必要があります。
- ③ 交通インフラは、市民生活と都市の成長を支える重要な基盤であり、地下鉄七隈線の延伸や都心循環 BRT の導入、幹線道路の整備などを着実に進めてきましたが、都心部などで生じている交通渋滞への対応、各拠点等における交通利便性の向上など、引き続き様々な課題に対応していく必要があります。
- ④ 理系人材をはじめとして、次代を担う若者の東京圏などへ流出している現状があることから、活躍できる場の創出が必要であり、本社機能や成長分野の企業、グローバル企業の立地を促進し、高付加価値なビジネスの集積につなげ、雇用を創出する必要があります。

(4) 施策

6-1 都市活力を牽引する都心部の機能強化と魅力向上

都心部及び、その核となる天神・渡辺通、博多駅周辺、ウォーターフロントの3地区において、建築物や道路、公園などの整備や更新期を捉えながら、エリアマネジメント団体をはじめ、企業、行政など多様な主体が連携して、都市機能と回遊性の向上を図り、快適で高質なビジネス環境を創出するとともに、陸・海・空の広域交通拠点との近接性を生かしながら、3地区の地区間相互の連携を高め、都心部の国際競争力を高めます。

また、博多湾や那珂川などの水辺や通り、広場などのオープンスペースを活用し、花や緑、文化芸術、歴史などにより、彩りと潤い、賑わいがある魅力的なまちづくりを進めます。

6-2 様々な都市機能が集積した魅力・活力創造拠点づくり

九州大学箱崎キャンパス跡地において、多様な都市機能やゆとりある空間、先端技術の導入などにより、快適で質の高いライフスタイルを創出するとともに、アイランドシティや九州大学伊都キャンパス及びその周辺、シーサイドももちにおいて、物流や研究開発、情報関連産業、観光・MICE など、地域特性に応じた高度な都市機能の集積を図り、都市全体に活力を生み出す拠点づくりを進めます。

6-3 公共交通を主軸とした総合交通体系の構築

鉄道や幹線道路など、市民や来訪者の円滑な移動を支える交通ネットワークの充実・強化を図るとともに、公共交通や自転車の利用を促進するなど、市民・民間事業者・行政が連携し、分かりやすく使いやすい公共交通を主軸として、多様な交通手段が相互に連携した総合交通体系を構築します。

6-4 成長分野の企業や本社機能の立地の促進

都心部における高質なビジネス環境の創出を契機として、国際金融機能をはじめ高付加価値なビジネスの集積を図るため、立地交付金や地方拠点強化税制なども活用し、知識創造型産業や環境・エネルギー、医療・福祉など、成長性のある分野の企業誘致を進めます。



目標 7 チャレンジ精神と新たな価値の創造により、地域経済が活性化している

(1) めざす姿

- 地場中小企業において、多様な人々がいきいきと働き、特徴ある製品やサービスが生み出されるとともに、農水産物の消費拡大やブランド化が進むなど、様々な産業で競争力が高まり、地域経済が活性化しています。
- スタートアップが互いに交流しながら成長し、新たな価値を生み出すなど、チャレンジする人材が活躍しやすいまちになっています。
- チャレンジ精神のある多様な人材や企業が国内外から集積するとともに、産学官民の連携が進み、様々な社会課題を解決する先進都市になっています。

(2) 市民意識

| 項目 | 初期値 |
|--|-----|
| 「野菜や魚など、新鮮でおいしい農水産物を食べられるまちづくり」が進んでいると思う市民の割合 | |
| 「新たな技術やサービスの創造などにチャレンジしやすいまちづくり」が進んでいると思う市民の割合 | |

(3) 現状と課題

- ① 地域経済の活性化のためには、市内事業所の9割以上を占める地場中小企業の振興が不可欠ですが、原油・原材料価格の高騰などの社会経済情勢の変化や、慢性的な人手不足により、中小企業の経営には大きな影響が生じています。
- ② 農林水産業従事者の高齢化や担い手不足などにより、農地が減少し、荒廃森林が増加するとともに、不安定な海外情勢の影響を受け、生産資材、燃油価格が高騰するなど、農林水産業の経営は厳しい状況にあります。
- ③ 2012年(平成24年)に「スタートアップ都市ふくおか」を宣言して以来、創業の裾野が着実に広がっている中で、福岡発スタートアップのさらなる成長や様々な社会課題の解決に向けた取組みへの環境づくりが求められています。
- ④ 大学などの高度な教育・研究機能が集積する福岡市の強みを生かし、新たな製品やサービスを創出するため、産学官民の連携や、知識創造型産業のさらなる集積を促進していく必要があります。

(4) 施策

7-1 地場中小企業の競争力強化などによる地域経済の活性化

地場中小企業に対し、融資や販路開拓、人材確保、生産性向上などの支援を行い、競争力・経営基盤の強化を促進します。

また、賑わいと魅力のある商店街づくりや伝統産業の振興などに取り組み、地域経済の活性化を図ります。

7-2 農林水産業とその関連ビジネスの振興

新鮮で安全な農水産物を市民に安定供給するため、農林水産業の担い手づくりやスマート化などにより経営の安定化を図るとともに、農地、漁場などの生産基盤の保全・強化、中央卸売市場の活性化などに取り組みます。

また、民間活力を生かした新たな魅力の創出や食のブランド化を推進し、食品の製造や流通などの関連産業の振興を図ります。

7-3 新たな価値の創造とスタートアップ都市づくり

様々な分野でチャレンジする人材や企業が国内外から集まり、交流するスタートアップ都市づくりを進め、創業の裾野を広げるとともに、成長を支援します。

また、官民が連携し、AIやIoT等の先端技術を活用しながら新たな価値を創造するなど、多様な手法による社会課題の解決に取り組みます。

7-4 産学官民が連携した知識創造型産業などの振興

産学官民の連携を推進し、大学や研究機関の集積による豊富な人材と技術シーズを生かした研究開発拠点の形成を推進するとともに、ITやナノテクノロジー等の先端技術を活用した産業の振興や、エンジニアの集積・交流などに取り組みます。

また、水素の社会実装をはじめとする脱炭素関連産業や、福岡市の魅力となるクリエイティブ関連産業の振興に取り組みます。

目標 8

アジアのモデル都市として世界とつながり、国際的な存在感がある

(1) めざす姿

- 港湾、空港機能が充実し、福岡都市圏、さらには九州全体の国際交流のゲートウェイとして機能しています。
- 多くの地場企業が積極的に海外展開するとともに、グローバル人材やその家族にも住みやすいまちづくりが進むことで、海外の企業が数多く立地し、様々なビジネス交流を通して、地域の経済が活性化しています。
- 少子高齢化や環境問題に先進的に取り組んできた知識と経験を生かし、世界中で深刻化する社会課題の解決に貢献するとともに、様々な国際会議の開催都市として、国際社会において存在感を発揮しています。

(2) 市民意識

| 項目 | 初期値 |
|---|-----|
| 「博多港・福岡空港の利便性が高く、モノ・ヒトが行き交う、九州と世界をつなぐまちづくり」が進んでいると思う市民の割合 | |
| 「世界各国の人から働きやすく、住みやすい場所として選ばれているまちづくり」が進んでいると思う市民の割合 | |

(3) 現状と課題

- ① アイランドシティ整備事業や福岡空港の滑走路増設、クルーズ船の受入れ環境整備などにより、人流・物流の機能強化は着実に進んでおり、アジア諸都市との近接性や充実したネットワークを生かし、国際競争力をさらに高めるため、港湾空港機能を充実・強化していく必要があります。
- ② 人口減少社会を迎え、国内市場の拡大が見込みにくい中で、将来にわたり地域経済を活性化していくためには、地場企業や福岡発スタートアップの海外展開や外国企業の立地などを促進するとともに、医療や教育をはじめ、グローバル人材にも住みやすい環境づくりを行う必要があります。
- ③ 日本が世界で最初に直面している超高齢社会や、世界共通の課題である環境問題など、様々な都市問題や社会課題について、福岡市の知識と経験を生かし、国際社会に貢献していく必要があります。

(4) 施策

8-1 成長を牽引する物流・人流のゲートウェイづくり

博多港と福岡空港について、機能の充実・強化や利便性の向上、多様な航路の維持・拡大、都心部や背後圏との連携強化などを推進し、九州と世界をつなぐ物流・人流のゲートウェイづくりに取り組みます。

8-2 国際的なビジネス交流の促進とグローバル人材にも住みやすいまちづくり

アジアとの近接性を生かしながら、国際的なビジネス交流を促進するため、地場企業やスタートアップの海外展開や外国企業とのビジネス連携などを支援するとともに、外国企業の誘致と世界で活躍するグローバル人材やその家族にも住みやすいまちづくりを一体的に推進します。

8-3 国際貢献・国際協力の推進と国際会議の誘致

様々な都市問題や社会課題の解決をテーマに開催される国際会議への参加や会議の誘致などを通じて、福岡市の持続可能なまちづくりを世界に広め、福祉や環境、上下水道分野などにおいて、国際貢献・国際協力を推進し、アジアをはじめ国際社会におけるプレゼンスの向上を図ります。

2 空間構成目標

(1) 現状と課題

- 都心部を中心にY字型に伸びる広域的な都市軸に沿って都市機能が集積し、都市高速道路や外環状道路などの幹線道路網、地下鉄などの鉄道網が整備され、放射環状型の都市軸により、都市の骨格が形成されています。
- 陸海空の広域交通ネットワークの充実や、ビジネス、観光などの交流の活発化により、九州、日本はもとより、アジア、世界に向けた国際交流軸が形成されつつあります。
- 博多湾や脊振山系などの豊かな自然環境を生かし、市街化調整区域を維持しながら都市の膨張を抑制してきた結果、高度な都市機能と豊かな自然が調和したコンパクトで住みやすい都市として評価を得ており、この都市空間を今後も維持しつつ、自然環境との共生や公共交通ネットワークのさらなる充実に取り組んでいく必要があります。
- また、気候変動や価値観の多様化が進み、経済的な成長だけでなく、精神的な豊かさが重視される時代にあって、日本は本格的な少子高齢化社会を迎えるとともに、全国各地で大規模な自然災害が頻発しており、身近な地域における利便性の向上や安全・安心な都市空間の形成が必要になっています。

(2) めざす姿

- 海や山に囲まれた地形的な特徴を生かし、都心部を中心にコンパクトな市街地が形成され、都市的魅力と豊かな自然環境が調和し、安全・安心な暮らしのもと、市民が日常的にそれを享受しています。
- 福岡市の成長エンジンである「都心部」、都市の成長を推進する「魅力・活力創造拠点」、界隈性のある街空間の中で市民生活が営まれる「広域拠点」「地域拠点」「日常生活圏」など、それぞれのエリアの個性や強みが生かされ、交通基盤のネットワークにより移動の円滑性が確保された「コンパクトでコントラストのある都市」が実現しています。

<都心部>

都市活力の中心及び国際交流のゲートウェイとして、国際競争力を備えた商業・業務、MICE、文化、港湾など高度な都市機能、広域交通機能が集積しています。

また、水辺や通り、広場などのオープンスペースは、花や緑、文化芸術などにより、彩りと潤いがあり、多様な人と企業が集積・交流しています。

<地域の拠点>

市民生活の核となる拠点には、まちの歴史や生活圏域、交通結節機能など、拠点の特性に応じて、市民生活に必要な都市機能が適正に集約されています。

東部・南部・西部の「広域拠点」は、交通結節機能の高さを生かし、都市活力を担いつつ、行政区や市域を越えた広範な生活圏域の中心として、商業・業務機能や市民サービス機能など諸機能が集積しています。

「地域拠点」は、区やそれに準ずる生活圏域の中心として、日常生活に必要な商業機能や市民サービス機能など諸機能が集積しています。

<日常生活圏>

小学校区単位を基本とし、公民館を拠点として、自治協議会を中心に地域コミュニティが形成され、市民の良好な居住環境と日常生活に必要な基本的な生活利便性が確保されています。

<魅力・活力創造拠点>

拠点の特性に応じて、物流、情報、研究開発など、福岡市の成長を推進する多彩な都市機能が集積しています。

「アイランドシティ」は、豊かな自然に恵まれ、環境に配慮した先進的モデル都市及びコンテナターミナルと一体となった国際物流拠点を形成しています。

「九州大学箱崎キャンパス跡地」は、多様な都市機能やゆとりある空間、先端技術の導入などにより、快適で質の高いライフスタイルを創出しています。

「舞鶴公園・大濠公園地区」は、都心部に近接した貴重な緑地空間として、市民の憩いの場となり、また、歴史資源を生かし、文化芸術と融合した観光・交流拠点を形成しています。

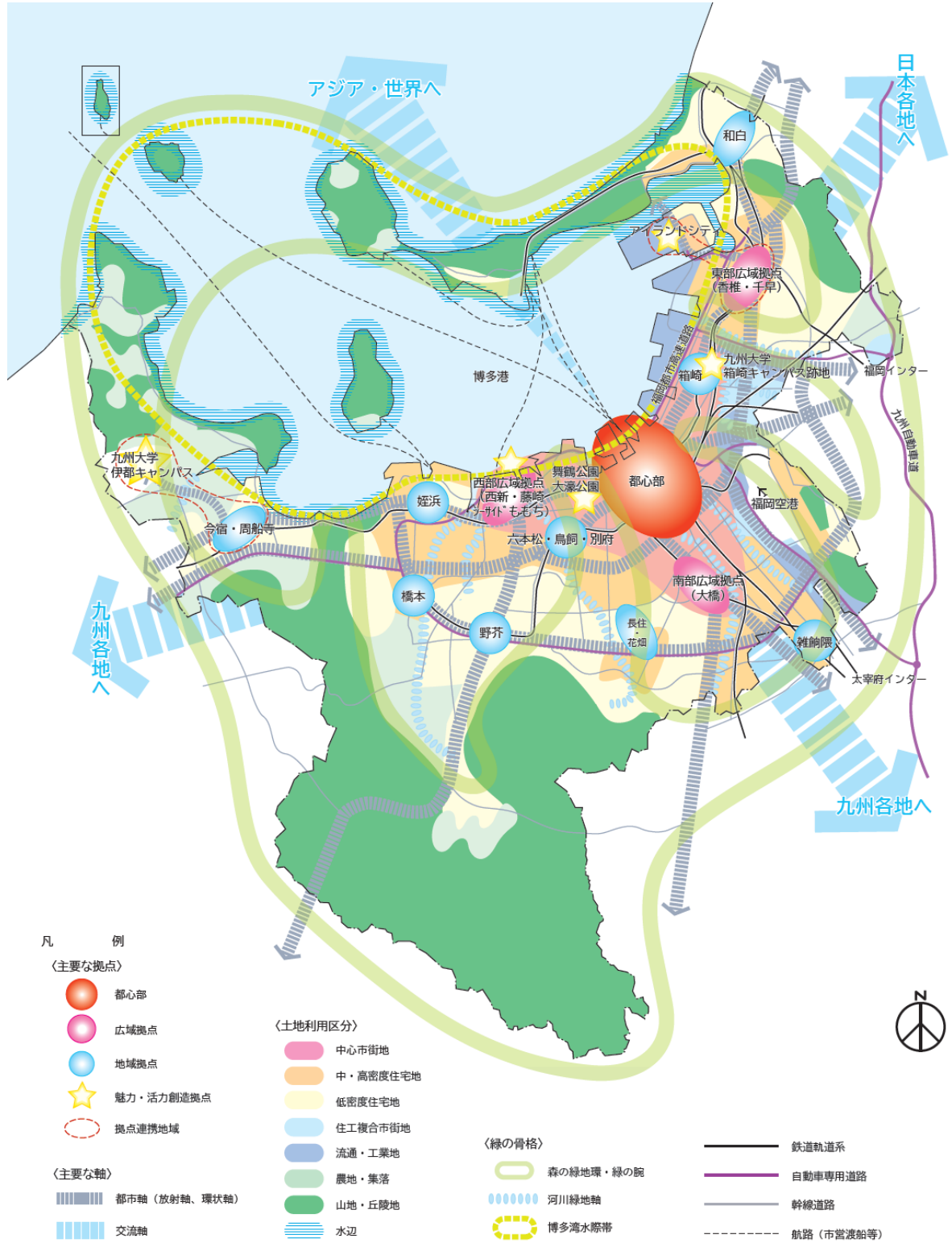
「シーサイドももち」は、福岡市の情報関連産業の集積拠点となり、また、文化・エンターテインメントなどの既存資源を生かした観光・MICEの拠点を形成しています。

「九州大学伊都キャンパス及びその周辺」は、糸島半島を圏域とする九州大学学術研究都市の核として、学生や研究者などが新たな知を創造、発信する研究開発拠点となり、また、産学官が連携した新たなビジネスやイノベーションの創出拠点を形成しています。

<交通ネットワーク>

陸海空の広域交通ネットワークを備える都心部を中心に、それぞれの拠点間は公共交通機関でネットワークされ、拠点内やその周辺では身近な生活交通が確保されることで、多様な都市活動や市民生活を支える移動が円滑に行われています。

都市空間構想図



①主要な拠点

主要な拠点は、「生活の質の向上」と「都市の成長」を両立させ、持続的な好循環を創り出すために都市活動や市民生活にとって重要な拠点となる地区です。

■都心部

天神、博多駅、博多ふ頭・中央ふ頭を中心として、東は御笠川、南は百年橋通り、西は大正通りに囲まれたエリア

■東部・南部・西部の広域拠点

香椎・千早（東部）、大橋（南部）、西新・藤崎・シーサイドももち（西部）

■地域拠点

和白、箱崎、雑餉隈、六本松・鳥飼・別府、長住・花畑、野芥、姪浜、橋本、今宿・周船寺

■魅力・活力創造拠点

アイランドシティ、九州大学箱崎キャンパス跡地、舞鶴公園・大濠公園地区、シーサイドももち、九州大学伊都キャンパス及びその周辺

■拠点連携地域

（東部拠点地域（アイランドシティ～東部拠点）・西部拠点地域（九州大学伊都キャンパス～今宿・周船寺））

拠点間の連携を図りながら、一体的な拠点地域の形成を図る地区

②主要な軸

■都市軸

都市軸は、福岡市の骨格となる重要な交通ネットワークを受け持つ道路であるとともに、都市活動や市民生活を営む上で必要な機能が連続する沿道の市街地を示します。また、市内の各拠点の機能分担や連携を図るために重要な軸です。

- ・「放射軸」は福岡市と周辺都市などを放射状に結ぶ軸
- ・「環状軸」は中心市街地を取り巻き、東部、南部、西部の連携を強化する軸

■交流軸

交流軸は、福岡都市圏や九州・西日本への都市間交流を図るY字型都市軸とともに、アジア・世界へ向けた国際交流の主要な骨格となる軸

③緑の骨格

緑の骨格は、都市の環境保全をはじめ、福岡らしい風景をつくり、市民の憩いの場を創出するなど、大きな役割を果たす緑地や水辺を示します。

■ 森の緑地環・緑の腕

市街地と博多湾を環状に囲む森林で構成される「森の緑地環」と、そこから市街地に伸びる丘陵地の樹林や大規模公園で構成される「緑の腕」により、都市の環境保全と福岡らしい風景を形成

■ 河川緑地軸

市街地を貫流する主要な河川と河川沿いの緑で構成され、都市に美しい景観と身近な潤いを創出

■ 博多湾水際帯

自然海岸や干潟、海浜公園などにより、博多湾を囲み、連続した緑地と水際空間を形成

④土地利用区分

地域特性に応じて市域を大きく8つのゾーンにまとめて示します。福岡市の中心である都心部に近いほど多様な都市機能の密度が高く、遠いほど密度が低く豊かな自然環境が身近に感じられるようなゾーン配置としています。

■ 中心市街地

都心部、東部・南部・西部の広域拠点を補完する諸機能をもつゾーン

■ 中・高密度住宅地

中心市街地の外側に広がる中高層住宅を主とし、低層住宅も共存する住宅地

■ 低密度住宅地

中・高密度住宅地の外側に位置する戸建住宅を主とし、豊かな緑に包まれ、身近に自然が楽しめるゆとりのある住宅地

■ 住工複合市街地

空港西側や幹線道路沿いに位置する住宅、流通・工業施設、商業・業務施設など、住む場所と働く場所が複合した市街地

■ 流通・工業地

空港周辺や博多港などに位置する流通施設や工場からなるゾーンで、生産・物流機能を担う地域

■ 農地・集落

農林水産業の振興を図るとともに、緑地空間の保全など、自然や歴史的資源を生かした地域づくりを図るゾーン

■ 山地・丘陵地

市域を取り囲む山や森林などにより緑の骨格が構成され、緑の保全を進めていく地域

■水辺

自然海岸や豊かな干潟環境を保全するとともに、市民が身近にふれあい憩えるゾーン

(3) 空間構成目標の実現に向けた土地利用の方向性

- 無秩序な市街化を防止し、計画的な市街化を図るため、都市計画区域を、市街化を促進する区域である市街化区域と、市街化を抑制すべき区域である市街化調整区域に区分する、いわゆる「区域区分」について適切な運用を図ります。
- コンパクトで持続可能な都市を目指し、市街化区域の拡大を必要最小限に抑え、市街化調整区域の自然環境や農地並びに市街化区域内に残る良好な緑地を保全します。また、既存の社会資本を最大限に活用できる既成市街地や現在の計画的開発区域を中心に人口や必要な都市機能の受入れを図ります。
- 海辺や河川、緑などの豊かな自然環境、民間空地などの都市アセットを生かし、潤いと安らぎを創出するなど、都市空間の魅力向上を図ります。
- 標高概ね80メートル以上の樹林地や和臼・今津干潟などの都市の貴重な自然を保全するとともに、市街地内に残る山すそ緑地や水辺空間の保全に努めます。
- 山地から市街地へ伸びる緑の腕や海とつながる河川空間を生かした水と緑のネットワークを形成するとともに、森林・農地などにおける保水機能の維持・向上など、生物多様性の保全・回復とその恵みの持続可能な利用を図ります。

①市街化区域の土地利用の方向性

- 計画的な市街地整備を図る「市街化区域」については、用途地域などの地域地区や地区計画制度などの適切な運用により、都心部からの近接性や交通の利便性、都市基盤の状況などを踏まえ、都心部から市街地周辺部にかけての段階的な密度構成によるメリハリのきいた、ゆとりと潤いのある市街地形成を図ります。
- 都市活力の中心となる「都心部」など、高度な都市機能の集積を図るエリアにおいては、彩りと潤い、賑わいを感じられ、多様な人と企業が集積・交流する、質が高く、高度利用された市街地の誘導を図ります。
- 市民生活の核となる「広域拠点」や「地域拠点」、都市の骨格を形成する「都市軸」など、市民生活に必要な都市機能の誘導を図るエリアにおいては、鉄道駅周辺や幹線道路沿道など、都市基盤のストックを最大限に活用し、適切な高度利用や土地の有効利用を図ります。
- 市民生活の基盤となる住宅地においては、日常生活に必要な機能の充実など、利便性が高く、安全・安心な住環境を形成するとともに、地域の特性に応じて、地域の主体的なまちづくりを支援し、きめ細かな土地利用の誘導を図ります。

②市街化調整区域の土地利用の方向性

- 市街化を抑制する「市街化調整区域」については、自然環境や農地、林地など保全すべき区域を明確化し、その保全に努めます。
- 市街化調整区域の中でも、既存集落や美しい自然景観を有する地域においては、身近に触れられる豊かな自然や新鮮な農水産物等を農山漁村地域の魅力として磨きあげ、市民や観光客の憩いの空間を形成するとともに、規制緩和制度も活用しながら、農林漁業の振興や集落コミュニティの維持・活性化、観光振興等に向けた土地利用を誘導します。
- 市街化調整区域のうち、鉄道駅周辺や幹線道路沿道など、良好な市街地整備が確実に実施される地区については、農林漁業などとの調整を図りながら周辺環境を十分に勘案し、市街化区域への編入などにより、計画的なまちづくりを誘導します。

(4) 空間構成目標の実現に向けた交通体系の方向性

- 既存の交通基盤や新たな技術などを生かしながら、鉄道やバスなどの公共交通機関相互の連携や交通結節機能の充実・強化を図り、分かりやすく使いやすい公共交通を主軸として、徒歩や自転車、自家用車などの多様な交通手段が相互に連携した総合交通体系の確立を目指します。
- 九州・アジアなどとの広域的な交流を促進するため、陸海空の広域交通拠点の充実・強化を図るとともに、環境負荷の少ない交通体系の構築を目指しながら、都心部の回遊性の向上を図ります。
- 都市的な魅力と自然環境が調和したコンパクトな都市という強みを生かし、「都心部」、「魅力・活力創造拠点」、「広域拠点」、「地域拠点」などをつなぐ交通ネットワークの充実・強化を図ります。
- 快適で生活しやすい居住環境を形成するため、市民生活の核となる「広域拠点」や「地域拠点」へのアクセス強化を図るとともに、公共交通事業者などと連携し、生活圏において、日常生活を支える生活交通の確保を図ります。